

浄土真宗本弘寺婦人会だより

平成30年9月

第46号

ご法事のころろ　－亡き人をご縁として－

ご法事というのは、仏法をいただくことです。けっして先祖の冥福を祈るための行事ではありません。亡き人はあなたにとってどのような方だったのでしょうか？

日常生活の中では、私たちは自分にとって都合の良い人であれば大切だと思い、都合の悪い人であれば嫌悪します。しかし今は亡き人は生前、私にとって都合の悪かった人であったとしても『諸仏』となります。

なぜなら亡き人は私に「人間は必ず死すべきものである」と自らの身をもって示され、そして『真実に目覚めよ』と促すはたらきとなってくださるからなのです。ご法事の際は亡き人をご縁として『死』という人間の事実に向き合い、仏法に触れ、自らの人生を振り返る、そしてこれからの生き方を見つめ直す大切な機縁なのです。



物故者法要について

本弘寺婦人会では毎年6月20日の総会の日にご物故者法要を厳修しております。

耳慣れない法要の名前なので、会員の方からも質問を受けたことがあります。一般的には1周忌、3回忌、7回忌、13回忌・・・などのご法事を執り行われておられることと思います。

婦人会では今年38回の総会を迎えました。この永年の間には数多くの会員の方が亡くなられております。その方達のお名前を婦人会過去帳に記させていただき、物故者法要として、亡き会員の皆様を偲んでお勤めさせていただいております。

☆ 会 員 の 広 場 ☆

私が婦人会にご縁をいただいて4年が過ぎました。宗教心もないまま年齢を重ね、やっと少しずつではありますが手を合わせる有り難さを感じるようになりました。

小菅家に嫁いだのは今から40年ほど前になります。主人とは職場結婚で3人の子供に恵まれました。舅は穏やかで物静かなお酒好き。姑は明るく社交的。2人の義妹は社会人と学生でした。でも舅は昭和61年に、姑は平成23年に突然、癌に倒れお浄土に還って行かれました。今は義妹たちもそれぞれ7人と4人の孫のおばあちゃん。私も5人の孫に囲まれる身となりました。



その姑の跡を継ぎ婦人会に入会させていただいたのが4年前、何も知らなかったお寺の作法も教えていただき、信心の素晴らしさ、親鸞聖人の教えの奥深さを日々感じております。

お経はどれも同じ煩悩を断ちきるための教えと思っておりましたが、いつも称えている「正信偈」は阿弥陀如来のおちからに一切の計らいを捨ててお任せし、それによって救われたことの喜びが説かれたものであるということ。あの親鸞聖人も深く深く学ばれてたどりついたのが、煩悩を抱えたこの身このままだ、阿弥陀如来に救われていくという信心の喜びを常にご自身の問題として見つめておられたということに驚き感銘を受けました。

これからも日々、いよいよ仏様のおちからに感謝し、仏法聴聞させていただきたいと思っております。有り難うございました。

小菅すみ子

新しい仲間を紹介いたします

岩澤好子さん、6月より入会いただきました。弥栄在住で、日曜礼拝にも毎週ご参詣なさっておられます。お寺さんとはご子息のボーイスカウト活動を通しての古いご縁があり、仏法聴聞に熱心な方です。よろしくお願いいたします。

